

第126回神奈川大学日本常民文化研究所研究会

渋沢栄一と明治神宮

—内苑との隔たり、外苑への思い—

平山 昇氏

神奈川大学日本常民文化研究所 所員
国際日本学部 准教授

日時:2021年6月16日(水)17:30~19:00

会場:Zoomミーティング 【開場:17:15】

申込方法:6月14日(月)12:00までに、ご氏名とご所属を明記し、jomin-kenkyukai@kanagawa-u.ac.jpまでメールをお送りください。追って参加ID/PWを送信いたします。

渋沢栄一と明治神宮

—内苑との隔たり、外苑への思い—

昨年（2020）年は、東京・代々木の明治神宮（内苑）で鎮座祭が行われてから百周年であった。1920年11月1日におこなわれたこの鎮座祭には政財界の主だった面々が数多く参列したが、この記念すべき日に姿が見えない人物がいた。明治神宮創建の大功労者、渋沢栄一である。奇妙なことに、これにかぎらず渋沢は内苑造営の節目となる行事をほとんど欠席している。鎮座祭後も内苑をほとんど訪れていない。一方で、外苑については地鎮祭も奉獻式も参列した。これは単なる偶然なのだろうか。本報告では、①東京実業界、②江戸・徳川（徳川の遺臣）、③儒学的西洋化という渋沢の三つのバックグラウンドとの関わりに着目しながら考えていきたい。